

## 「まえばし幼児教育充実指針～めぶく～第3版」を活用した園内研修の紹介

今年度、「遊びと環境」をテーマに園内研修に取り組んでいる「こども園」から、幼児教育アドバイザーの派遣依頼があり、「まえばし幼児教育充実指針～めぶく～第3版」を活用した園内研修が行われました。幼児教育アドバイザーの「質の高い保育実践に必要なのは、話し合える力をもつチームであること」の話を受け、めぶくのP22、P28～30を活用し、グループに分かれて以下のようなテーマ（線枠内）で話し合い、その意味や必要性について幼児教育アドバイザーからアドバイス（点線枠内）をしていただきました。

保育記録の写真にタイトルを付け、子どもに育っているところ、育ちつつあるところを捉えよう。

- タイトルを考えることで、子どもの気持ちや心を読み取る視点が見えてくる。
- 資質・能力や10の姿を視点にすると、子どもの具体的な育ちの姿が見え、育ちを支える援助のポイントや子どもを見取る視点に気付くことができる。

“遊びが動きだす”きっかけを感じたエピソードをもとにねらいを踏まえ、環境の構成・援助について語ろう

- 子どもの思いや保育者の願いを語り、同僚に聞いてもらうことで子どもの見方や理解を深め次の保育につなげたい。
- 子どもの好奇心、探求心を見取り、受容的、応答的にかかわることで遊びが動き出すきっかけをつくることができる。
- 具体的な明日の環境の構成や援助を出し合うことで、各自の考えが広がる。

幼児教育アドバイザーのまとめの話  
「遊びの充実・遊びの継続を願うとき」

- 子どもは何に興味をもって何を感じて何をしようとしているのか、一緒におもしろがる大人がいることが大切。見過ごしがちな子どもの気付きや関心に気持ちをよせ、次の“やってみよう”につなげる。
- 好奇心や探求心が動き出すと遊び続けることができる。
- 子どもも自分の遊びを振り返る時をもつことが大事。振り返ることで次の遊びの見通しがもてる。帰りの会で個々の子どもの好奇心や探求心から動き出した遊びを話題にすることでクラスの共通な体験となり育ち合う場をつくることにつながる。

「まえばし幼児教育充実指針～めぶく～第3版」の活用や  
園内研修の進め方等、幼児教育センターにご相談ください！

根っこが  
大事！

## 「見つけた！ 楽しい作品！」

「見つけた！ 楽しい作品！」では、いろいろな園所で見つけた子どもたちの作品などを紹介させていただきます。

今回は、前橋市立粕川保育所で見つけた楽しい作品を紹介します。

年長児が夏祭りに向けて製作した「きょうりゅうのおみこし」です。

どんなおみこしを作ろうか、みんなで話し合っただけで決まったのがこの「きょうりゅうのおみこし」だそうです。『カルノタウルス』という恐竜だそうです。

年少児、年中児も恐竜の足跡を手形で押ししたり、たまごに模様をいかしたり、できることで製作に参加したそうです。

夏祭り後は保育所に飾り、運動会でもこの恐竜が大活躍したとのことでした。

